

第7回 ファクタリング活用の留意点

近年、資金調達の手段としてファクタリング

運転資金の確保に
することがあります。

介護事業では、収入の多くを国保連からの介護報酬が占めます。サービス提供後、通常は翌月10日頃までに請求し、入金日は翌月の25日頃です。つ

は翌月の25日頃です。つ

数値を「解く」

感覚経営からの

脱却



株式会社川原経営総合センター介護経営コンサルティング部 部長 佐々木 孝高氏の経営改善を主に担当。経営改善計画書や運営支援、その他、管理職研修、科学的な数値推進支援など法人内研修や団体主催研修など講演多数。加算算定を含め制度を駆使した件wise型コンサルティングを実施。日本医療経営コンサルタント協会医療経営コンサルタント、ISO9001：2015 審査員補、東京都第三者評価者養成講座修了者

まり、提供したサービスが現金になるまでには2カ月の時間差があります。ファクタリングは、この入金予定の債権を先に現金化し、資金繰りが前倒しされます。一時的に入金のタイミングが重複することで、現金が増加し、資金繰りを安定させる仕組みです。また、ファクタリングより入金が2回に分かれる場合は、資金繰りが平準化されます。

れます。

ただし、ここで重要な

継続利用は利益圧迫に有効活用を

のは、資金繰りは一時的に楽になりますが、法人全体の収益が増えたわけではないことです。将来入る介護報酬を早く受け取っているにすぎず、根本的な収益改善にはなりません。

例えば夏の賞与支給のために利用した場合、その後の資金繰りが改善しなければ、冬の賞与でも再び同じ対応が必要になります。

も上昇することになります。経営改善の進捗によつては、契約更新が解除となる可能性さえあります。

契約の終了時には、それまで前倒しで受け取っていたため、国保連からの入金が無い期間が発生します。その間の運転資金の確保ができる状態であることが重要となります。

さらに、ファクタリングには借入金の利息と同様、手数料がかかります。一般にこの負担は融資より高くなりやすく、継続利用すると利益を圧

施設長の手帳

迫します。設備投資のような長期資金ではなく、あくまで一時的な資金不足への対応策として位置付けるべきでしょう。

フアクトリン
グは、使い方次第では有効です。しかし、経営を楽にする万策策ではありません。今月をしのぐ手段なのか、「資金繰りの構造問題を隠しているだけ」なのか。その見極めが、経営者に求められます。

図 ファクタリング活用時の資金の流れ (筆者作成)

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
サービス提供	請求	入金				
(通常→) サービス提供	請求	入金				
(ファクタリング→) サービス提供	入金・入金	(←資金調達)				
(ファクタリング→) サービス提供	入金・入金					
	(ファクタリング→) サービス提供	入金・入金				
		(ファクタリング→) サービス提供	入金・入金			
			(ファクタリング→) サービス提供	入金・入金		
				入金・入金		
					入金の無い間の資金繰り確保	
支払手数料発生		(ファクタリング解約→)	サービス提供	請求	入金	